

## アメリカ訪遊記

向江秀之

### A Personal Impression of Visiting USA

Hideyuki Mukae

#### 1. はじめに

幸運なことに入社7年目にしてアメリカへの初海外出張（1998年10月6日～10月16日）の機会に恵まれた。喜びと不安が交差する中、ささいなトラブルはあったにせよ発表と訪問を無事終える出来、得るものは大きかったと思う。ここに散歩道を書く機会を得たので、個人的な印象を述べたいと思う。

#### 2. 米国人間工学会 (Human Factors and Ergonomics Society) への参加

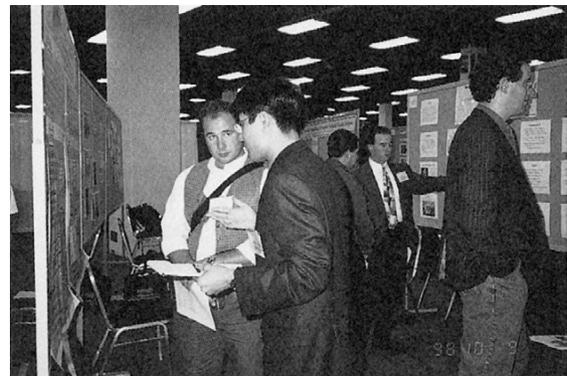
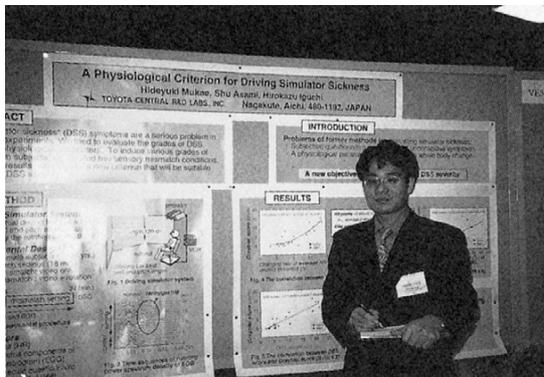
シカゴのHYATTホテルで行われた人間工学アメリカ国内大会ではあるが、参加者約1,500人、22テーマの国際会議レベルの大会であった（日本の人間工学大会の3～5倍の規模）。この学会の特徴は、Aerospace SystemsやVirtual Environmentといったアメリカならではのテーマが含まれていることであり、日本でもこのような好奇心を刺激す

る、境界領域の巨大な大会が望まれる。

自分自身はVirtual Environmentのポスタセッションにて、“A Physiological Criterion for Driving Simulator Sickness”を発表した。事務局の指示どおりに1枚の巨大なポスタを作り（写真左）、苦勞して持っていったのだが、周りの演者（アメリカ人？）は各自思いのままにポスタを作っており（写真右：A4×10枚など）、イントロ部分は小さな文字で延々と書かれ、「話が違う」と思いながら国民性の違いを肌で感じた（もちろん指示どおりに作っている方もいました）。

また、説明中は日本人がやってきては日本語で議論がはずんだ。英語では言いたいことが十分に言えず消化不良であったが、日本語では2割増の説明であった。

【ホームページ：<http://hfes.org/HFES.html>】参照



アメリカ人間工学会でのポスタセッションの様子  
 （左：事務局の指示通りのポスタと筆者 右：バラエティに富んだ？ポスタ）

### 3. 研究機関の訪問

訪問してみたい研究機関は数あれど「つて」はないので、いきなり電子メールを送り訪問のアポイントを取る手段（暴挙？）に出た。断られて当然なのに、快く訪問を受け入れてくれたことに感謝し、日本のお土産を持参して訪問した。

人間の情動と生理反応との対応を研究しているC教授（オハイオ大）との対談では、日本語でもすぐには理解できない内容を、何度も丁寧に説明してくれた。電子メールでの対応は素っ気なかったが、実際に会ってみると気さくな方で、そのギャップに驚いた。

生体信号を用いた操作機器を開発し、バーチャルカンパニーを設立したJ博士とは、研究の話ばかりでなく、ヨガや太極拳といった東洋の健康法で趣味が一致し、楽しい訪問となった。「芸は身を助ける」とはこのことだろうか。

シミュレータ酔いを生体信号から評価しているS教授の研究室（ペンシルベニア州立大）では、大学院生のM君の研究を見せてもらった。明らかな信号処理のミスを見つけたが、言うべきかどうか思案しているうちに訪問が終了した。彼はまだ同じミスを繰り返しているのだろうか？未だに気になる。

自分が31歳という比較的若い年齢からか、先生方に一方的に教えて頂いた、と言う感じの訪問と

なった。訪問前はすごく緊張したが、実際に会ってみると、とても気さくな方ばかりで、訪問を楽しむことが出来たことはとても幸運だったと思う。英語を流暢に話せなかったという問題はあったけれど、辛抱強く聞いていただいた先生方に感謝し、このご恩は将来自分が書くであろう論文を贈ることでお返ししようと思う。

### 4. さいごに

アメリカ到着が午前中であったことから、初日は時差ぼけが激しく、相当こたえた（午後到着便をお勧めします）。両替はCITI BANKカードでATM機から現地通貨でおろすことが出来、とても便利であった（海外へはCITI BANKカードをお勧めします）。食事はテイクアウトが発達しており、一人の時何かと便利であった（シカゴではタイ料理がブームだそうです）。スーパーではビールを買おうとすると「ID card, please」と言われ（どう見ても子どもではないのに!?!）、パスポートを取りにホテルに戻り再度ビールを買おうとすると、今度はパスポートを見せることなく買えた。

習慣の違いには戸惑う事が多かったけれど、慣れてしまえば日本と変わらず便利な国であり、そのお国柄に触れることが出来たことは良い経験になったと思う。

最後にこの紙面を借りて、今回の出張でお世話になった方々に感謝します。